

# I 事業報告

## 1 会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及び成果等

令和7年度の事業状況は、石油及び液化石油ガス（以下「LPG」）の出荷量が引き続き減少・低迷する中で、タンクの法定開放検査及び外部全面塗装の経費が予定を上回り大幅に増加したことが、収支に重くのしかかり損失を計上しました。

第6次経営計画の2年度目ではありますが、このような厳しい状況のもと、施設・設備の維持管理を適正に行い、安全・安心な基地運営を継続していくためには、料金単価の改定を含めた本計画を見直さざるを得ない状況となり、運営委員会での協議を踏まえ、株主の元売様のご理解とご協力により、令和8年度からの料金単価の改定などを内容とした計画の修正を決議していただきました。

一方、政府による燃油への補助金や暫定上乘せ税率の廃止などによるエネルギー価格の安定化など、物価高騰対策がなされている中で、国際情勢が一気に緊迫化する米国等による突然のイランへの軍事攻撃により、中東湾岸諸国からの原油調達が滞る事態が発生し、今後の動向をはじめ、価格や安定供給への影響が懸念される状況となっています。

今後におきましても、地域のエネルギー供給拠点として安定供給の使命を果たしていくため、株主の元売様との連携や協力に一層努め当基地の利用促進をお願いするとともに、安全な基地運営と健全な経営を堅持していくため、様々なリスクへの適切な対処とともに、資格取得や研修などによる人材育成を進め、適正な投資・修繕による設備保全や維持管理、運営経費の節減、業務の効率化などに努めて参ります。

#### ① 受入及び出荷実績

今期の石油類及びガス類の受入は126隻（前期117隻）のタンカーが着栈し、石油類278,086キロリットル（前期293,229キロリットル）、ガス類7,821トン（前期8,579トン）となりました。

また、石油類及びガス類の出荷は、石油類273,565キロリットル（前期比△6.0%、17,510キロリットルの減少）、ガス類8,373トン（前期比+2.8%、227トンの増加）となりました。

#### ② 投資及び修繕の状況

投資部門は、昨年引き続き石油ローリー積込場の流量計4台を更新しました。

4年計画の2年目で1車線ずつ順次更新する予定としています。また、同積込場ではバリアユニット1基とリモートスイッチ並びにローディングアーム2本を更新し、安全性を確保しました。

施設の保全・修繕部門では、石油タンク T-201 の法定開放検査と前回見送った

タンク外部全面塗装を実施し性能の維持を図りました。また、重油ポンプ P-501 の補修整備をはじめ、高圧ガス保安法に基づく L P G 保安検査や棧橋脚柱電極交換、消火用泡原液の交換、社内職員用パソコンの更新を図ったほか、各施設・設備の重点的な点検と修繕整備を実施し、施設・設備の予防保全を図り、構内全体の安全性向上と製品品質の保持に努めました。

### ③ 経営の成果

石油売上は 182,057 千円(前期比△5.8%、11,203 千円の減少)、ガス売上は 31,422 千円(前期比+2.8%、859 千円の増加)となりました。

この結果、総売上高は 213,478 千円(前期比△4.6%、10,344 千円の減少)となり前期を下回りました。

次に運営経費につきましては、主に法定開放検査などの修繕保安管理費や次期法定開放検査に備える特別修繕繰入額の増加がある一方、耐用年数経過などによる減価償却費の減少があり、一般管理費は 257,051 千円（前期比+5.5%、13,356 千円の増加）となり前期を上回りました。

このため、営業収支及び経常収支とも損失となり、15,439 千円の当期純損失を計上いたしました。

### ④ 対処すべき課題

国際情勢の不安定化や緊迫化が増す中で、生活や産業活動を支えるエネルギーインフラとしての基地の重要性が高まっています。一方、当基地は、震災後復旧した設備も 15 年を経過するなど、大概の主要設備は創業以来の設備であることから、経年劣化による故障や設備不全のリスクを抱え緊急修繕工事が発生します。

円滑に基地の運営を進め安定供給を実現していくためには、日常の点検や各種検査をはじめ、適切な修繕や更新などによる設備の予防保全に努め、安全な操業を確保していく必要があります。

また、収支均衡による健全な経営を継続していくためには、出荷量の確保と適切な料金単価の設定が重要となります。出荷量の減少を含め不測の事態に対応した逐次の料金単価の見直しとともに、料金制度の在り方も検討していく必要があります。

さらには、頻発する災害などのリスクへの備えとともに、人口減少や省エネなどによる需要減少やカーボンニュートラルへの対応など長期的な課題にも適切に対応していく必要があります。

株主の皆様におかれましては、今後とも、格別のご理解、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。事業の経過及び成果等の報告とさせていただきます。